

令和5年度 神山中学校 学校評価 総括評価表

評価指標 アンケート肯定的評価・・・80%以上：A、80～60%：B、60～40%：C、40%未満：D

重点目標	重点目標を達成するための内容	生徒質問項目	評価	保護者質問項目	評価	教職員質問項目	評価	その他
1 安全安心な学校づくりを推進する。	①安全教育・防災教育を推進するとともに学校の安全対策及び感染症対策に努める。	1 避難訓練などの防災教育によって、地震や火災などの災害時に自分がとるべき行動を理解している。	A	1 学校は台風や積雪などの自然災害時において、メール等で適切な連絡がとれている。	A	1 (学年団教員) 学校行事を含め、授業においても防災教育や安全教育を進めている。	A	
		2 登下校時や学校にいるときに不審者に対して自分がとるべき行動を理解している。	A			2 (全教職員) 自分の担当場所について、校内の施設設備の安全点検が実施できている。	A	
		3 必要だと考えたときには、マスクを着用したり、帰宅時に手洗いをしたりして感染症対策を行っている。	A					
	②生徒相互及び生徒間の信頼関係を確立するとともに、いじめや不登校の早期早期対応と解消に向けた取組に努める。	4 困ったことがあれば相談にのってくれる友達や先生がいる。	A	2 子どもは家庭で、友達や先生の話をよくしている。	B	3 (全教員) 生徒理解の視点を重視し、個に応じた指導を行っている。	A	
		5 先生はいじめや困っていることがあればすぐに取り上げてくれる。	A	3 学校は子どものことについて適切に相談に応じてくれる。	A	4 (全教員) いじめ・不登校の防止や早期発見、早期対応について共通理解や組織的対応ができてきている。	B	
		6 SNS等を利用するときはモラルやマナーをきちんと守っている。	A	4 子どもが家庭でインターネットを利用するときのルールを話し合っている。	B	5 (学年団教員) 学校行事や授業で、情報モラルやインターネットの使い方等についての学習を進めている。	A	
	③体育館の無い状況で、近隣の施設と連携して充実した活動を行うとともに生徒の安全に配慮する。	7 体育館は建設中だが、他の施設を活用して、授業や学校行事、部活動を充実して行えた。	A			6 (全教職員) 体育館が無い状況にも工夫して充実した教育活動を行っている。	A	

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<p>・概ね安全安心な学校づくりが推進できていると言える。</p> <p>・生徒質問項目7の回答から、体育館はない状況だったが、学習活動や部活動は充実して行えたと言える。</p> <p>・思春期を迎えた発達段階ということもあり、家庭では学校でのことを保護者にあまり話さない生徒もいる。</p> <p>・生徒はインターネットの使い方について適切だと認識しているが、保護者の回答は昨年より横ばい状態であり、家庭でのルールづくりには課題が見られる。</p> <p>・教職員の質問項目の1や2の肯定的回答は高い値であり、教職員の安全への意識は高い。また、質問項目5の肯定的回答が100%であり、情報モラル教育に関する意識は高いと言える。</p>	<p>・学校での活動を直接見られる参観授業やオープンスクール、学校行事の機会への保護者参加を促す。</p> <p>・インターネット安全教室等の活動時に保護者参加を検討する。</p> <p>・いじめや不登校への組織的対応を一層推進する。</p>	<p>・不登校が気になる。不登校の子の保護者への働きかけで成果を上げている記事があったが、一人親家庭の支援などの受け皿づくりを町に働きかけることも必要ではないか。</p> <p>・以前はケース会議なども行われていた。</p> <p>・不登校生の支援はケースバイケースである。子どもの段階(状態)を見誤らないことが重要。</p> <p>・担任だけでなく、学年団の誰もが家庭訪問を行えるような組織的な取り組みを進める。</p> <p>・昼夜逆転の状態を防止するには、ルール作りなど家庭の教育力が重要であるが、各家庭の事情もあり難しい。</p> <p>・外部の力を活用するには、家庭の理解が必要になる。</p>

2 確かな学力を育成する。	①主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、ICTを活用した授業実践を展開する。	8 授業では、1時間のめあてを確認できていて、最後には1時間の学習を振り返っている。	B			7 (授業担当者) 授業では、めあてを明示し、学習の流れを確認して、最後には振り返りを行っている。	B	
		9 ペアやグループ等の話し合い活動では積極的に自分の考えを言っている。	B	5 子どもは自分の考えをわかりやすく説明することができる。	B	8 (授業担当者) 授業では、ペアやグループ学習の場面を多く設定している。	B	
	10 ほとんどの教科の授業でタブレットが活用できている。	A	6 子どもは学習用タブレットを家庭に持ち帰って有効に学習に使っている。	B	9 (授業担当者) 授業中の活動の中に、タブレットを活用する場面を積極的に取り入れている。	A		
	②生徒自身が学びによって喜びを味わい、達成感を実感できる学習活動を行う。	11 授業での学習活動において、楽しいと感じたり、やり遂げたことを実感できたりしたことがある。	A	7 子どもは以前より学習への意欲が高まったと感じる。	B	10 (全教職員) ICT活用に関するスキルを研修や日々の職務によって、前年度より高めることができた。	A	
③生徒が自分の将来にとって必要な学びを意識し、主体的に学習に取り組む態度を育てる。		12 積極的に自分の意見を述べ、主体的に授業に取り組んでいる。	A			11 (授業担当者) 生徒の関心を引き出し、達成感を感じさせる授業を工夫している。	A	
		13 自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。	A	8 子どもは何も言わなくても自分から家庭学習を行っている。	B	12 (学年団教員) 自分の将来に向かって学習に臨めるようキャリア教育を進めている。	A	

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<p>・確かな学力の育成について、生徒自身の評価は高いが、保護者から見た評価はそれほどでもない。保護者の立場からは、今以上に学習に取り組んでほしいという要望があると考えられる。</p> <p>・生徒質問項目12の回答では肯定的な回答が昨年より9ポイント向上しており、自分の意見を述べ、主体的に授業に取り組むことができている。</p> <p>・生徒や教職員は授業時の話し合い活動が充実していると考えているが、保護者は子どもが自分の考えをわかりやすく説明する力がまだ備わっていないと感じている場合がある。</p> <p>・学習用タブレットの活用には、学校と家庭ともに課題がある。また教職員の活用状況も昨年より大きく向上していない現状である。</p> <p>・生徒質問項目13では肯定的回答が9ポイント下がっており、保護者質問項目7、8でも肯定的ポイントが10ポイント以上下がるなど学習意欲の向上に取り組む必要がある。教職員質問項目13でも肯定的回答は十分ではなく、工夫が必要である。</p>	<p>・家庭でも進んで学習を行えるような、主体的な学びを子どもが行えるような仕掛けづくりが必要である。</p> <p>・学習活動の中で、自分の考えを適切に表現できる力の一層の向上を図る。</p> <p>・タブレットの活用を今以上に進め、生徒が有効に学習に使用できるよう指導するとともに、教職員も活用能力を高め、授業で使える場面を工夫していく必要がある。</p>	<p>・タブレットの有効な活用とは、どのようなことを言うのか。使うことが目的になってはいけない。</p> <p>・タブレットの利点はデータの蓄積が容易にできること。それによって苦手な部分の理解などがしやすい。また、宿題等の提出が家からでもできる。弊害は盗用・盗用の問題。</p> <p>・現代はスマホ社会であり、ICT抜きには考えられない社会である。授業等でもICTの活用ができないことは、社会と乖離していることになる。</p> <p>・どんな力をつけたいのか、そのためにタブレットをどう使うのか、タブレットを使いこなす指導が大切である。</p> <p>・現代は勉強の意味が見出しにくい社会になっているのかもしれない。競争による刺激が少ない。</p> <p>・親も自信がない。</p> <p>・家で何を学ぶかを考えられるようにしていくことが必要。(与えられた宿題だけではダメ)</p>

3豊かな心と健やかに生きる力を育成する。	①基本的な生活習慣の定着を図り、運動機会を大切にするとともに、特別活動等を通して自主性や創造力を伸ばす。	14 大きい声で友達や先生にあいさつしている。	A	9 子どもは早寝早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身についている。	B		
		15 部活動は楽しく、積極的に参加している。	A			14 (部活動顧問) 生徒は部活動で自発的に行動できている。	A
		16 神中祭等の行事や委員会活動などで、意見を出したり、進んで活動したりできた。	A	10 神中祭等の行事で、生き生きとした子どもの姿が見られた。	A	15 (全教職員) 神中祭等の行事においては、生徒の意見や自発的な行動を促す工夫ができた。	A
	②人権を尊重する精神を育み、同和問題をはじめとする人権問題についての正しい理解と実践力の育成に努める。	17 道徳等の時間に友達と話し合ったり、手を挙げて考えを発表したりできている。	A	11 子どもはやさしい人間として育ってきていると感じている。	A	16 (学年団教職員) 道徳等の時間に、生徒同士話し合う場面を積極的に取り入れるよう工夫している。	A
		18 学級での人権学習や合同学習は自分にとって大切な勉強だと思う。	A	12 子どもは友達と良い人間関係を築き上げている。	A	17 (学年団教職員) 道徳や学活の時間に計画的に同和問題をはじめとする人権学習を進められている。	A
		19 合同学習や清掃等の縦割り班活動を積極的に行っている。	A				
③特別支援教育のための校内体制を充実させ、適切な合理的配慮を提供する。	20 先生は一人一人に応じた対応をしてくれている。	A			18 (全教職員) 各々の教員が特別支援教育への学ぶ姿勢を大事にし、協働的な校内体制ができている。	A	

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の育成と健やかに生きる力の育成について概ね推進できていると言える。 保護者質問項目9の肯定的回答が昨年より9ポイント減少しており、家庭での望ましい生活習慣の定着ができていない生徒が一部にいる。 生徒質問項目15、16の肯定的回答は昨年同様高い水準であり、部活動や学校行事に積極的に取り組むことができている。 保護者質問項目の11、12についても肯定的回答が高く、生徒は豊かな人間性を育み、良好な友達関係を築いている。 教職員の回答より、部活動への取組や人権学習、特別支援教育について肯定的な回答の値が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭中心に行っている長期休業日等の健康チェックを活用し、各自の生活を見直す機会を与える。 インターネット利用による夜更かしを防止するためにも、インターネット安全教室等の機会を有効に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日開催の行事もあるが、来て欲しい家庭はなかなか来てくれない。 講演等の内容によるところもある。 神中祭での生徒のいきいきした様子には感動した。 先生があの手この手で努力している。 中学生にとって基本的な生活習慣は重要だが、現代はテレビを見ず、ネットを見ている。自分の自由になるので依存もしやすい。 タブレットに時間制限などはできないのか。 お金をかければできるかもしれないが、自分で管理できるようにならなければ社会に適應できない。

4 保護者や地域住民に信頼される学校づくりを推進する。	①各種たよりの発行やホームページの活用により積極的な情報発信を行う。	21 学校からの配布物や通知はきちんと家の人に渡している。	B	13 学校だよりや学校のホームページをよく見ている。	B	19 (全教職員) 各種たよりやホームページ等での情報発信を適切に行うことができた。	A
	②教職員のコンプライアンス意識の醸成に努め、信頼される学校組織をつくる。					20 (全教職員) 教職員は倫理観や責任感を持っており、節度ある態度で職務に臨んでいる。	A
	③ふるさとに学ぶ学習活動を重視し、校区の学校や団体と連携しながら、へき地教育の研究活動を進める。	22 神山町についての学習やつなぐ公社などの地域の方たちと行った学習活動が印象に残っている。	A			21 (学年団教職員) 子どもたちに学習によって、ふるさとを大切に思う気持ちを育てることができた。	A

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 生徒質問項目21の肯定的回答が12ポイント下がり、学校からの配布物を保護者に手渡せていない生徒がいる。 教職員質問項目19の肯定的回答が18ポイント向上しており、各種たよりの発信や学校ホームページの更新のスキルが向上している。 保護者質問項目13の肯定的回答が12ポイント下がり、保護者に学校からのたよりやホームページの活用を促す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手渡すような指導を生徒に行うとともに各家庭との連携を強める。 ホームページに掲載する情報をできるだけ増やし、保護者にも伝えて、家庭との連携の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 渡さないというよりも、カバンの中がぐちゃぐちゃで渡せない生徒もいる。 部活動の予定などは載せられないか。 部活動などは変更することが多いので難しい。

5 協働した組織的な業務執行体制により、機能的で合理的な学校運営を行う。	①教職員個々の取組の上に教職員の協働した取組を重ねる。					22 (全教職員) 自分の役割を責任を持って果たすとともに、他の教職員の役割にも協力することができた。	A
	②全教職員による共通理解を大切に、個々の学びの成果を教職員全員と共有する。					23 (全教職員) 自分が行っている業務を改善するために、他の教職員からのアドバイスを受け検討した。	A
	③全ての業務を見渡したときに公平感が感じられる組織づくりを進め、学校の体制としての働き方改革を推進する。					24 (全教職員) 自分が研修してきた内容を他の教職員に広めることができた。	B
						25 (全教職員) 教職員間の人間関係は良いと感じる。	A
						26 (全教職員) 学校全体として働き方改革が進められている。	A
						27 (東員教職員) 校務支援システムやグループウェアの活用について理解が進み、昨年より適切に活用できた。	A

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 概ね達成できているが次の課題がある。 教職員質問項目24の肯定的回答が21ポイント減少しており、個々の教職員の学びから全教職員への拡がりに課題がある。 教職員質問項目25の回答では、「よく思う」の回答が19ポイント減少しており、本年度の教職員のまとまりにやや課題がある。 教職員質問項目26の「よく思う」の回答が9ポイント減少しており、働き方改革の方策を更に模索する必要がある。 教職員質問項目27の回答は「よく思う」の回答が減少しているが、肯定的評価が100%であり、校務支援システムの活用については、ある程度のスキルが蓄積されたものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学びを全体へ広げる取組を進める。 教職員の人数や性格を超えた部分での協働活動を進めて行く。 働き方改革につながる取組の一層の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に対しての組織的な関わりを進めていく。 職員室の雰囲気はややおとなしいのでは。 各教科の授業字数などとの関わりで、仕事の負担を平均化することが難しい面がある。 コロナ禍が明けて出張等が戻ってきたと同時に、コロナ禍で培われたオンラインによる会議等は増えていると感じられる。 役割分担意識が強いのかもしない。自分の役割を少しこえて関わるが増えていくとスムーズに回るようになる。